

Close-up
Interview

(6月号 表紙の顔)

岩見 彩乃
AYANO IWAMI「競技ボウリングの面白さ、楽しさを
自分なりの方法で伝えていきたい」

普段は少女漫画の世界から飛び出してきたようなフリフリ系ファッションに身を包み、ボウリングは3歩助走のバックアップという、女子プロ界唯一無二の個性で異彩を放つ自称「魔法プロボウラー・のいちゃん」こと岩見彩乃プロ。だが、そんな「見た目」だけで彼女を「たんなるイロモノ」と断じてはいけない。その胸の奥底には、だれにも負けないボウリング愛とプロ意識がしっかりと根付いているのだ――。

(PHOTO: 馬場高志)

バックアップ投法秘話

少女時代は「引きこもりのゲームオタクだった」という。

「家で一日中ネットゲームをやっている、学校はサボりまくり、みたいな(笑)。人とのコミュニケーションが苦手で、学校には友だちがいなかったけど、ゲーム仲間とはチャットで普通に交流できて、それが楽しかったんです」

ボウリングとの出会いは意外に遅く、ゲームクリエイターを目指して大学でプログラミングを学んでいた20歳のとき。自宅近くのボウリング場で始めたアルバイトがきっかけだった。

それまでもいくつかバイトを経験したが、やはり人間関係がうまくいかず、どれも長続きせずじまい。「でも、そのボウリング場はお客さんが少なく楽チンだったし(笑)、こんな私でも普通にお喋りできる穏やかな年輩の方ばかりだった」ことで、彼女にとっては長く居心地のいい場所となる。同時に、チームチャレンジというセンターの大会を通じて、自身もボウリングにハマっていった。

「月に1回、スタッフとお客さんがチームを組んで試合をするんです。私も頑張らないとお客さんが勝てないし、勝ちたいと思って毎日練習しました。スタッフはタダで投げられるし、マジお得じゃん! みたいなノリで(笑)、ひとりで10ゲームとかバンバン投げていました」

センターにプロの指導者はおらず、すべては自己流だった。「最初はずっとハウスボールで投げていて、ショップの廃棄ボールをもらって初めて作ったマイボールが15ポンド(苦笑)。それがバックアップになった原因かもしれないし、バックアップのほうが球速も曲がりも出たことが大きいですね」

ちなみに、彼女がいたボウリング場、ゆみ〜るボウルはアル

バイト在籍中に2度オーナーが代わり、その都度ストライカーズ兼取→ラクゾー兼取店と名前を変えて存続したが、5月31日を最後に閉鎖された。



▲(左)鳥好きの彼女が最近ハマっているというアプリゲーム「ウマ娘」のキャラクター・ゴルシ(ゴールドシップ)の勝利ポーズをマネて。馬の耳のカチューシャは清水弘子プロからのプレゼントだという (右)女子プロ界唯一無二のバックアップ投法リリース時の立ち位置に注目!

岩見は2012年の「第1回次世代P★リーガー発掘プロジェクト」の合格者として、プロ入り前にP★Leagueデビューを果たしているが、そのとき受験

プロ入り前からP★リーガー

初めての競技会はLBO(日本女子ボウリング機構=2013年解散)のU-30大会だった。「中島由美さんというLBOのプロがボウリング場の所属になって、『出場するアマチュアが少ないから出てよ』と。そのとき初めて出会う、同じボックスで投げたのが本間成美プロ(47期)で、お互い超初心者レベルでした(笑)」

当時のアベレージは150前後だったが、「大会では180くらい行ってテンションが上がった」という。以来、続けてLBOの大会に出るようになった。

「ひとり変わったボウリングだったこともあって、出るたびに少しずつファンというか、応援してくれる人が増えていったんです。それがうれしくて、ボウリングがさらに楽しくなりました」

を助めてくれたのも当時のファンだったそうだ。

「当時からブログをやっている、フォロワーを増やす目的で受けたんです(笑)。で、合格したらさらに応援してくれる人が増えて、アマチュアなのに県外からもチャレンジに呼ばれるようになった。これはもうプロテストを受ける流れだと思っていた、すぐに受けました」

だが、プロテスト突破には3年を要した。

「最初の年(13年)は力試しのつもりだったので落ち込むことはなかったけど、2年目の不合格はショックでした。テスト中に親指が腫れて、ファウルもしたりとボロボロ。最後は泣きながら投げていました(苦笑)」

P★Leagueでもデビュー後10連敗(1回戦敗退)、さらに123点というワースト記録を作り、見かねた番組スタッフの紹介で、矢野欽太プロ(30期)



に師事するように。

「最初は断つたらしいです。バックアップは一般に勧められる投げ方ではないし、教えるにもリスクがあるからと。私の出来が悪いことで周りからもいろいろ言われたと思うけど、逆にウチの親に謝ってくれたりして…いい師匠です」

「タイトルは絶対取りたい」

P★Leagueでは17年の第69戦で待望の初優勝を果たしたが、プロの公式戦では昨年の六甲クイーンズ17位が最高位。それでも、今年3月の女子プロオールスターに主催者推薦で初出場するという幸運な機会を得る(結果は24名中21位)。

「みんなが出なくても出られない大会だからものすごく緊張して、1カ月くらい前からずっとお腹が痛かったです(苦笑)。本番前に10回以上、北小金ボウルに行って練習させてもらっていたけど…力の差を痛感しました。でも、レジェンドやトップの人たちとのマッチゲームで、経験値はグンと上がったと



▲オールスターゲーム後に行われたエキシビジョンのチーム戦。岩見キャプテン率いるさんふらわあチームは準優勝に終わったが、岩見は優勝決定戦で全球ストライクを決めた(3月21日、北小金ボウル)

思うので。次は実力で出られるように、頑張って強くなりたいです」

「のいゆい」コンビで仲よしの同期・川崎由意がタイトルホルダーの仲間入りを果たしたことも刺激になっているようで「私もタイトルは絶対に取りたい」という。

「あと、私はボウリングのお陰で外にも出られるようになったので、ボウリング場がどんどんなくなっていく現状がすごく辛い。競技ボウリングの面白さ、楽しさを自分なりの方法で伝えていって、少しでもファン層を広げていきたいと思う。いまYouTube配信とかを頑張っているのもそのため、ボウリング普及のためなら何でもするつもりです」

取材協力: アイキョーボウル

「のいちゃん」と一緒に投げよう!
近日開催予定のチャレンジマッチ

●6月18日
ラウンドワンLIVEチャレンジ
東京・南砂店(配信店舗)
※with渡辺あき(45期)

●6月19日
愛知・コロナキャットボウル半田店

●6月20日
広島パークレーン
※with川崎由意(48期)

●6月26日
兵庫・青山スポーツガーデン
※サンブリッジフェア

●6月27日
神奈川・コロナキャットボウル小田原店

●7月10日
香川・マックスボウル
※with尾上萌楓(52期)

いわみ・あやの / 1989年4月15日
生まれ、千葉県出身。158cm、右投げ。
血液型O。2015年プロ入り(48期/
ライセンスNo.537)。20/21年度ポ
イントランキング53位、アベレージ
191.21(グリコセブンティーンアイス
杯終了現在)。P★League優勝1回。
アイキョーボウル/サンブリッジ所属。